

重点指標	具体的取組	主担	現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
1 中高一貫教育校の特長を生かし、学び方や生き方の質を高め、一人一人の良さを引き出し、認め、伸ばすための工夫・改善を図る。	1-1 中高一貫教育校に学ぶ生徒として誇りを持ち、気持ちの良い挨拶と礼儀・礼節を大切にするとともに、時間や期限を守ることを通して、社会に通用する人材を育成する。	生徒指導 教務 学習 各教科	保護者の9割は自分の子どもが挨拶の習慣が身に付いていると思っているが、生徒は約7割しか大きな声で気持ちの良い挨拶ができずと思っている。日常生活の中でしっかりと挨拶できない生徒もいるので、指導や仕掛けが必要である。起床、学習開始、就寝の3点の時刻の固定化と、提出物や課題を期限内に出させる指導をしているが、一部の生徒が守られない状況が見受けられ、継続的な指導を必要としている。学校内外において、ほとんどの生徒は錦中生としての自信と誇りを持って行動している。気の緩みを見せる生徒はごく少数である。	【成果指標】誰に対しても、大きな声で自分から気持ちの良い挨拶をする習慣が身に付いている。	誰に対しても、自分から気持ちの良い挨拶ができています。 肯定的評価が A80%以上 B70%以上 C60%以上 D60%未満	CまたはDの場合、生徒指導部で再検討	生徒対象アンケートにより評価
	1-2 健康な生活の維持向上に努めるとともに、部活動を通して心身ともに逞しい生徒を育成する。	保健指導 部活動指導	ほとんどの生徒は、正しい生活習慣を身に付け健康管理に気を付けるとともに、部活動で多くのことを学び充実した学校生活を送っている。また、中3の夏以降も、自らあり方・生き方を考え、部活動にも意識を高く持って参加する生徒が見られる。しかし、不規則な生活や、自分の健康に気を配れない生徒も一部見られる。	【成果指標】規則正しい生活を通して健康な生活に気を配るとともに、部活動を通して多くのことを学び、心身ともに逞しくなっている。	規則正しい生活をするともに部活動を通して心身ともに逞しくなっている。 肯定的評価が A90%以上 B85%以上 C80%以上 D80%未満	CまたはDの場合、部活動担当で再検討	生徒対象アンケートにより評価
	1-3 中高一貫教育校のメリットの1つである時間のゆとりを生かし、資格取得や各種コンクール等への積極的な参加を促し、自ら学び、創造性を伸ばそうとする生徒を育てる。	各教科	英語は国レベルで強化が進んでおり、2年前から英検の全員受験に取り組んでいる。英語教室に目標を掲示したり、英語の時間に指導したりするなど、少しでも目標が達成できるように取り組んでいる。	【成果指標】英検の取得級に目標をもち、合格を目指して、計画的に学習を進め目標級を取得している。	英検の取得率(4級は中2、3級は中3、準2級は高1レベル) 1年 2年 3年 A4級65%以上 3級70%以上 準2級55%以上 B4級60%以上 3級60%以上 準2級45%以上 C4級55%以上 3級50%以上 準2級35%以上 D4級55%未満 3級50%未満 準2級35%未満	CまたはDの場合、教科で再検討	英検の取得率により評価
	1-4 朝の全校読書に取り組み、読書の習慣化を図る。	読書指導	読書に親しむ生徒は多い。さらに目的をもって本を読んだり、知識や教養を広めたりすることができるよう読書の質の向上に取り組むことが必要である。	【努力指標】読書が習慣化し、自立した読み手として目的に沿った読書に取り組んでいる。	読書が好きで、普段から読書に親しんでいる。 肯定的評価が A85%以上 B80%以上 C75%以上 D70%未満	CまたはDの場合、読書指導で再検討	生徒対象アンケートにより評価
	1-5 望ましい人間関係づくりといじめを見逃さない学校づくりに取り組み、問題があれば組織的に対応する。	特別活動 生徒指導	「学校へ行くのは楽しい」に肯定的な回答をした生徒の割合は約9割、「いじめはどんな理由があってもいけないこと」に肯定的な回答をした生徒の割合は約9割である。(H29年度全国学力・学習状況調査より)	【努力指標】望ましい人間関係づくりを目指す特別活動を実践するとともに、日常的な生徒観察や定期的なアンケート等を通していじめを見逃さない学校づくりに取り組んでいる。	「学校が楽しい」と感じる生徒を増やせるとともに、生徒観察や定期的なアンケート等をおして実態把握に努め、小さな変化にも組織的に対応している。 肯定的評価が A100% B95%以上 C90%以上 D90%未満	CまたはDの場合、管理職、生徒指導で再検討	教員対象アンケートにより評価
	1-6 生徒一人一人の良さを引き出し、認め、伸ばす教育を推進し、「自己有用感の高い生徒」を育てる。	生徒指導 各教科担任 各担任	「自分には良いところがある。」に肯定的な回答をした生徒の割合は約7割である。(H29年度学習・生活アンケートより)	【成果指標】生徒一人一人の良さを引き出し、認め、伸ばす教育を推進することで、生徒の自己有用感を高める指導をしている。	「自分には良いところがある。」と感じている。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	CまたはDの場合、管理職、生徒指導で再検討	生徒対象アンケートにより評価
	2 道徳教育やキャリア教育の充実及び積極的な生徒指導の推進を通して、高い志と人を大切にする豊かな人間性、主体的に行動できる強い心を持った生徒を育成する。	2-1 道徳の時間を要として、教育活動全体を通じて、理想の実現や人を大切にする心、より良い社会の実現を目指すなどの道徳性を育くむ。	道徳教育担当 各担任	「人を大切にする心が広がった」に肯定的な回答をした生徒の割合は約8割である。(H29年度学習・生活アンケートより)	【満足度指標】道徳の時間を要として、教育活動全体を通じて道徳教育を推進し、生徒が自己の成長や人を大切にする心が深まったことを感じている。	道徳の時間を要として、教育活動全体を通じて道徳教育を推進し、生徒が自己の成長や人を大切にする心が深まったことを感じている。 肯定的評価が A90%以上 B85%以上 C80%以上 D80%未満	CまたはDの場合、道徳担当で再検討
2-2 総合的な学習の時間や特活の時間を中心に6年間を見通したキャリア教育を実践し、生徒の視野を広げ将来の夢や目標について考える取組を行う。		総合的な学習担当、キャリア担当	「将来の夢や目標を持っている」に肯定的な回答をした生徒の割合は約8割であり、昨年より若干上がっている。今後もキャリア教育の焦点化や体系化を図っていく必要がある。	【成果指標】キャリア学習に関わる様々な取り組みを通して、視野を広げ自分の将来について深く考えるようになっていく。	将来の夢や目標を持っている。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	CまたはDの場合、総合、キャリア教育担当で再検討	生徒対象アンケートにより評価
2-3 学級会活動や生徒会活動において、1年生から段階的に話し合い活動や自治的な活動に取り組みせ、自主的・実践的な態度を育てる。		特別活動担当	色々の活動を自分たちの手でやり遂げようとする意識が芽生え行動にも表れている。今後はさらに生徒自身が判断したり考えたりして、最後まで粘り強く行動できるようにしていく必要がある。	【努力指標】学級・学年の活動や生徒会・委員会の活動を自分たちで企画や準備、運営をしようとする努力をしている。	色々の活動や取組に対して、自分で考えて自主的に最後まで粘り強く取り組んでいる。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	CまたはDの場合、特別活動担当で再検討	生徒対象アンケートにより評価

重点指標	具体的取組	主担	現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考	
3	学校研究のより一層の深化・充実を図るとともに、自律的な学びを通して、たくましさや粘り強さを伴った確かな学力を育成する。	研究・学習各教科	与えられた課題に対しては粘り強く取り組む姿勢や態度は身に付けてきている。さらに学ぶ意欲を育む授業を目指していく必要がある。	【満足度指標】適切な指導内容や課題により、授業への満足度を高めることができている。	教材研究に取り組み、「授業が良くわかる」と回答する生徒を増やしている。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D60%未満	CまたはDの場合、各教科で再検討	生徒対象アンケートにより評価	
		研究各教科	「授業で話し合う活動をよく行っていると思う」に肯定的な回答をした生徒の割合は約9割であるが、「友だちの前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか」に肯定的な回答をした生徒の割合は約4割である。(H29年度全国学力調査、生徒アンケートより)	【満足度指標】話し合い、学び合い活動が充実し、自分の考えを広げたり、深めたりすることができている。	授業で生徒の間で話し合う活動がよく行われ、自分の考えを広げたり、深めたりすることができている。 肯定的評価が A80%以上 B70%以上 C60%以上 D60%未満	CまたはDの場合、各教科で再検討	生徒対象アンケートにより評価	
		学習各教科	各教科や学年で課題を与えているが、昨年度から「必須課題」と「選択必須課題」に分けて、生徒の能力に応じて選べるようにした。主体性を持たせた課題への取り組みが徹底しやすくなったが、今後も研究・改善を継続していく必要がある。	【成果指標】全教科で、基礎・基本の力が確実に定着するよう課題の出し方、評価方法を工夫し、学力推移調査等の結果に繋がっている。	教える、学びきる指導を通して、学力推移調査や定期テストにおいて、下位層を減らすまたは増やさないことができている。 肯定的評価が A80%以上 B70%以上 C60%以上 D60%未満	CまたはDの場合、各教科で再検討	教員対象アンケート、学力調査等により評価	
	確かな学力の育成学校研究のより一層の深化・充実を図るとともに、自律的な学びを通して、たくましさや粘り強さを伴った確かな学力を育成する。	3-4	研究各教科	「論理的思考力・表現力」を育成することを意識し、各教科で根拠や筋道を明確にして説明や論述をさせる指導が行っており、今後もさらに研究実践を重ねる必要がある。	【成果指標】全教科を通じて根拠や筋道を明確にして説明させるよう指導し、生徒の「論理的思考力・表現力」を伸ばすことができている。	考えの根拠や筋道を明確にして、説明や論述ができるよう指導し、生徒の「論理的思考力・表現力」が伸ばすことができている。 肯定的評価が A80%以上 B70%以上 C60%以上 D60%未満	CまたはDの場合、各教科で再検討	教員対象アンケート、学力調査等により評価
		3-5	研究各教科	「批判的思考力」を育成することを意識し、各教科で課題設定、発問、学習形態等の工夫を重ねており、今後もさらに研究実践していく必要がある。	【成果指標】全教科を通じて多面的・多角的に考察する言語活動の充実を図り、生徒の「批判的思考力」を伸ばすことができている。	多面的・多角的に考察する言語活動の充実を図り、生徒の「批判的思考力」が伸ばすことができている。 肯定的評価が A80%以上 B70%以上 C60%以上 D60%未満	CまたはDの場合、各教科で再検討	教員対象アンケート、学力調査等により評価
		3-6	コミュニケーション教科 アドヴァンス各教科	6年間の系統性を意識して、国語科は高校と接続した評論や古典の学習に、英語科は高校へのつなぎ教材に、数学科は高校の内容に、それぞれ3年生の後半に取り組んでいる。社会科や理科においても、中学校の授業内容の中に高校で学ぶレベルのものを取り入れた発展教材に取り組んでいる。	【努力指標】6年間の系統性を意識した指導を行うことで、生徒の学力が向上した。	6年間の系統性を踏まえ、それぞれの教科の指導を行っている。 肯定的評価が A80%以上 B70%以上 C60%以上 D60%未満	CまたはDの場合、各教科で再検討	教員対象アンケート、学力調査等により評価
		3-7	研究・学習各教科	家庭学習を計画的に進めている割合は約6割であり、学年進行で下がる傾向がある。中高一貫教育校に共通する課題でもあり、改善が必要である。	【努力指標】家庭学習時間の目標を設定し、予習・復習の大切さを理解するとともに、年間計画やテストを意識し見通しをもって学習を進めている。	計画的に学習を進め、週あたりの家庭学習時間の目標を達成している。 肯定的評価が A80%以上 B70%以上 C60%以上 D60%未満	CまたはDの場合、各学年で再検討	生徒・保護者・教員対象アンケートにより評価
4	教職員の働き方や業務改善に関する意識改革を図るとともに、学校経営について積極的に情報を公開し、安心して学べ、信頼され、県民からより選ばれる学校づくりを行う。	4-1	教頭	教材研究・校務分掌・部活動で時間外勤務の平均時間は月64.2時間であった。また、時間外勤務が月80時間を超える教職員が年間で月平均で6.5人であった。	【成果指標】時間外勤務時間の平均を前年度より減少させ、時間外勤務時間は月80時間を超える教職員ゼロを目指している。	時間外勤務時間月80時間を超える教職員の数(月平均) A 0人 B 0~2人 C 2~4人 D 4人以上	CまたはDの場合、管理職で再検討	勤務時間記録表で評価
		4-2	教頭 教務	入学者の保護者の意識は高く、授業参観、学級、学年懇談会の参加率は非常に高い。オープンキャンパス、学校説明会に参加する児童、保護者の数は昨年度盛り返したが、まだ少なく、適性検査の受験者数にも大きな影響を与えている。今後も、さらに金沢錦丘中学校のよさを、県民にアピールしていく必要がある。	【成果指標】中高一貫教育校の現状の公開やよさのアピールを積極的に行うとともに、オープンキャンパス、学校説明会の参加人数や適性検査の受験者数をあげる。	中高一貫教育校の現状の公開に、積極的に努めている。 肯定的評価が A90%以上 B85%以上 C80%以上 D80%未満 オープンキャンパスと学校説明会参加者数 A600人以上 B500人以上 C400人以上 D400人未満 適性検査の受験者数 A280人以上 B260人以上 C240人以上 D240人未満	CまたはDの場合、情報の方法を再検討 CまたはDの場合、会の在り方を再検討 CまたはDの場合、管理職、教務で再検討	保護者対象アンケートにより評価 オープンキャンパスと学校説明参加者数で評価 適性検査の受験者数で評価